

新年あけましておめでとうございませう。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は小諸市政の推進にご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

《新型コロナウイルス感染症への対応》

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症を無しに語ることができません。小諸市では、一貫して、市民の皆様への正確かつ迅速な情報発信に努めるとともに、噂やデマに惑わされない冷静な対応、感染者やそのご家族、勤務先、医療従事者等への差別や偏見は絶対に行わないことを強くお願いしてまいりました。

このような状況下で行政が果たす役割としては、命と健康を守ることを最優先に考えること、生活支援や経済対策等、刻々と変化する情勢に素早く対応することに尽きると考えます。

まず、生活支援の取り組みとしては、「こもろ子育て応援チケット給付事業」としまして、子育て世帯への商品券の給付、「出産子育て応援金交付事業」としまして、国の特別定額給付金の対象とならなかった昨年4月28日から本年3月31日生まれの子の保護者に子ども一人につき10万円の給付、生活資金等融資事業等の実施に取り組んでまいりました。

また、経済対策としましては、外出や

往来自粛、また営業自粛により深刻な影響を受けている飲食・宿泊業支援に重点を置きつつ、市内の消費回復に繋げることを目的に、プレミアム付き商品券「こもろ応援チケット」を2度にわたり総額5億8千万円分を発行し、いずれも完売となりました。このほか、商工会議所様との連携によりテイクアウト・出前ができる飲食店チラシの作成やキャッシュレス決済ポイント還元キャンペーン等も実施いたしました。

未だ先行きが見通せないコロナ禍にありますが、今後とも確かな判断と状況に応じた迅速な対応により、一人の市民も取り残されることのないよう、引き続き全力で取り組んでまいります。

《健幸都市こもろ》

（小諸版ウエルネス・シティの実現へ）

私は、昨年4月の小諸市長選において、多くの皆様のご支援をいただき、結果的には、無投票となりましたが、2期目の小諸市政の舵取りの重責を担わせていただくこととなりました。

そして、公約の中で、小諸市が今後とも持続可能な自治体であり続けるためには、人口減少を抑制しつつ、市内外の人々から選ばれるまちであることが必要であり、そのための新たな小諸市の目指す姿・ビジョンとして「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」を掲げました。「ウエルネス」は、健康を身体の内側だけでなく、より広く総合

的に捉えた概念で、「身体・健康、精神の健康、環境の健康、社会的健康を基盤にして、豊かな人生をデザインしていく、自己実現」と定義されています。そうすると、このウエルネスは、健康・福祉はもちろんのこと、子育て・教育、環境、産業・交流、生活基盤、行政経営など、あらゆる分野からのアプローチが可能と考え方であると言えます。

《「ウエルネス」がもつ意味・価値》

「ウエルネス」の持つ意味の中には、家庭や職場のほかに「サードプレイス（第3の場所）」、「快適でゆつくりと脱力できる、癒される場所、自分に還れる場所、何度でも帰ってくる場所、ほどよい刺激があり、自己開発できる場所」という概念があります。小諸市にはこのサードプレイスたる地域資源（ウエルネス資源）自然、歴史、文化、人、地域課題解決の取り組みなど）にあふれています。

そこで、私は、「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」を、「あらゆる分野において「健康」「健全」であることで、市民が健康で生きがいを持ち、安全・安心で豊かな人生を営めるまち。小諸市を訪れる市内外の人々が「自分に還る」「何度でも帰りたい」「住んでみたいまち」と再定義しました。

このことは、小諸市の総合計画の根幹となる第5次基本構想の将来都市像



小諸市長 小泉 俊博

「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」とも整合性があります。

今後、総合計画の6つの政策分野（①子育て・教育、②環境、③健康・福祉、④産業・交流、⑤生活基盤整備、⑥協働・行政経営）において「健幸都市こもろ（小諸版ウエルネス・シティ）」の実現に向け、市民の皆様と共に各種施策・事業を実践してまいります。

最後になりますが、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願いつつ、本年が皆様にとりまして健やかで希望に満ちた実り多き年になりますようご祈念申し上げます。新年のあいさついたします。

皆で支え合い、明るい未来を描く希望の年に

コロナに打ち克ち、活力にあふれる小諸市へ

新年あけましておめでとうございませう。市民の皆様には、明るい希望に満ちた、令和3年の新春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

年頭に当たり、小諸市議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。議長のご職に就き、2回目の新年を迎えることができました。就任以来、市政の進展と円滑な議会運営に微力を捧げてまいりましたが、この間、市民の皆様から寄せられました温かいご指導やご厚情に対し、厚くお礼を申し上げます。

《感染症対応に注力した議会運営》

さて、昨年を振り返りますと、本市においては、一昨年の令和元年東日本台風のような大きな自然災害はなかったものの、日本全国また世界中に今もって猛威を振るっている、新型コロナウイルス感染症につきましても、市内でも陽性者が発生するとともに、飲食店関係や観光関係をはじめ多くの業種で新型コロナウイルスの影響を受け、市内経済にとっても大変厳しい状況が続いております。

市議会では、感染症拡大防止の対策として、毎日の検温や手指消毒を徹底するとともに、行政視察等県外への往來の自粛や、会議時間の短縮のため一般質問の時間削減等を実施

してまいりました。しかしこの間、将来の小諸市を担っていただく子どもたちに、議会や行政に興味を持ってもらおうと、7月に開催を計画していた小・中学生を対象とした「こども議会」につきましては、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。また、同様に、秋に計画していた「議会と語る会」につきましても、中止とさせていたところでした。

国においては、感染症予防や経済回復のため、地方創生臨時交付金を各自治体に交付しており、本市においてもこれを活用し、様々な事業が継続して行われております。また、その事業を実施するための予算については、定例の議会に加え、臨時議会を2回開催し議決してまいりました。

新型コロナウイルス感染症は、まだ終息する気配が見えない状況ですが、海外ではワクチンが開発され、接種が始まっておりますので、ワクチンが速やかに全世界に普及し、一日も早く終息することを切望しております。また、この間に落ち込んでしまった経済活動については、直ぐに回復することは難しいことと思いますが、引き続き国を挙げての支援策を強く要望していくとともに、議会としても行政と一丸になって、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

《出会い、語らい、ふれあい》に新たな期待を

さて、市政におきましては、利便性の高いまちづくりを支える施設として計画した「複合型中心拠点誘導施設」の愛称も決まり、建設工事についても、今年8月の完成に向けて着々と進められております。完成後は、様々な世代の市民の皆様や、様々な地域の皆様の「出会い、語らい、ふれあい」の場となるよう期待しております。また、中央保育園と芦原保育園の老朽化に伴い、両保育園を統合し再構築する新保育園についても、令和4年の開園を目指しております。現在、実施設計が進められておりますが、利用される園児や保護者の皆様にとって、より良い保育園となることを期待しております。

《これからの小諸市政を見据えて》

市議会では、昨年の12月定例会において、小諸市総合計画審議会からの答申に基づき市が策定した「小諸市総合計画第11次基本計画」について審議をし、議決を行いました。市長任期に合わせ今後4年間の計画となっておりますので、計画の進捗状況について議会としましてもしっかりと把握をし、市政運営のチェックを行ってまいりたい

と考えております。

また、「開かれた議会」を目指すとした議会改革や地域課題、近隣自治体との連携強化など、山積する課題についても、引き続き鋭意取り組んでまいります。

結びに、全議員が、議会としての果たす役割・責任とともに、活力にあふれる魅力ある小諸市を目指してまいりますので、これからも更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の今年一年のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

小諸市議会議長 竹内 健一

